



おたふくかぜの予防接種を希望される方へ

おたふくかぜの予防接種は、「任意予防接種」です。接種を希望する方は、この文書をよく読んで、予防効果や副反応について十分にご理解のうえ、接種されるようお願いいたします。

1 おたふくかぜとは

おたふくかぜは、ムンプスウイルスによる全身感染症です。飛沫感染後増殖したウイルスは全身に広がり、各臓器に病変を起こします。潜伏期は2～3週間で、学校保健安全法に基づく出席停止期間は耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまでです。

最も多い病変は唾液腺の炎症で、発熱などの前駆症状の後、境界不鮮明で均一なやわらかい有痛性腫脹を示します。耳下腺腫脹が多く、数日ないし1週間で症状は消退しますが、年長児や成人が罹患すると臨床症状がさらに著明で、合併症の頻度が高くなります。

2 予防接種を受けることができない方

- (1) 明らかに発熱（37.5℃以上）のある方
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- (3) 過去に、おたふくかぜワクチンの接種を受けてアナフィラキシーを起こしたことがある方
- (4) 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する方及び免疫抑制をきたす治療を受けている方
- (5) その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した方

3 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

次のいずれかに該当する方は、健康状態や体質等を担当の医師にしっかり伝え、よく相談した上で接種を行ってください。

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患がある方
- (2) 過去にけいれんをおこしたことがある方
- (3) 過去に免疫不全の診断がなされている方
- (4) 妊娠中に生物学製剤もしくは免疫抑制薬投与を受けていた母体より出生した児
- (5) 接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある方

4 副反応

現在市販されているおたふくかぜワクチンでの無菌性髄膜炎の副反応報告頻度は、接種1,600人～2,300人に1例程度であり（ワクチン添付文書から）、他に、耳下腺の軽度腫脹が1%みられます。

心配なことがあれば、医療機関にご相談ください。

5 接種後の注意

- (1) 接種後、重いアレルギー症状が起こることがあるので、すぐに帰宅せず30分間は安静にしてください。
- (2) 接種後に体調の変化や異常な症状がみられた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- (3) 接種当日は安静を保って過度な運動を控えましょう。接種当日の入浴は差し支えありません。

6 健康被害に対する救済措置

ワクチンの接種により健康被害が発生した場合は、内容により、「医薬品副作用被害救済制度」と「さくら市の行政措置災害補償保険」に基づく救済が受けられます。ただし、指定医療機関等以外で接種された場合、「さくら市の行政措置災害補償保険」に基づく救済が受けられない場合があります。

7 対象及び助成額等

回数	対象者	助成額	予診票配布
1回目	生後12か月～24か月までに1回	3,000円	塩谷郡市内医療機関にあります。
2回目	小学校入学前年度（年長児）の間	3,000円	

8 予防接種の受け方

【塩谷郡市内(さくら市・矢板市・高根沢町・塩谷町)の医療機関で接種する場合】

- ①医療機関に予防接種の予約連絡をする。
- ②予防接種当日は「母子手帳」を持って行く。予診票は医療機関にあります。
- ③接種料金から助成額を差し引いた金額(自己負担)を支払う。



塩谷郡市以外で受ける場合の
↑インターネット申請はこちらから↑

【塩谷郡市以外の医療機関で接種する場合】

- ①**予防接種依頼書の発行申請が必要です。接種前に健康増進課にお越しください。**(ネットからの申請も可)
- ②「予防接種依頼書」、「おたふくかぜ予診票」、「法定外予防接種助成申請書兼請求書」をお渡しします。
- ③医療機関に予防接種の予約連絡をする。
- ④予防接種当日、「母子手帳」、「予防接種依頼書」、「予診票」、「法定外予防接種助成申請書兼請求書」を持って行く。
- ⑤接種料金は医療機関の窓口にて全額お支払いいただき、後日健康増進課に助成申請の手続きを行う。

※接種日から1年過ぎてからの申請は、助成の対象になりませんのでご注意ください。

〈さくら市の実施医療機関〉

岡医院	おのこどもクリニック	きぬの里クリニック	黒須病院
小林医院	佐野医院	高瀬小児科医院	仲嶋医院
檜山医院	森島医院		

問い合わせ
さくら市健康増進課
TEL 028-682-2589